

## 「人魚を拾った日」

### ▼導入

むかし、人魚に命を助けられた事がある。

祖父と会うために訪れた街。

そこで漁師をしていた親戚につれられて、船に乗った時のことだ。

幼い私は、好奇心から身を乗り出しすぎて、海へと落ちてしまった。

沈むからだを抱きとめて、海面へと導いてくれたのは、人魚だった。

そのうつくしい姿を、今でもよく覚えている。

.....

遠くで海猫の鳴き声がする。

まだすこしだけ強い風が、まどろむきみを揺り起こすように、窓ガラスをかたかたと揺らした。

昨日は、ひどい嵐だった。

強い風と雨によって海は荒れ狂い、たとえ家まで波が到達することはないとは言え、生きた心地がしなかった。

.....もしかしたら、不謹慎にもどこか胸が高鳴るような感情は、あったかもしれないが。

今日は休日。昨日と違って天気もいい上に、時刻は早朝。朝食前に海を見に行ってもいいだろう。思わぬ漂流物や新しい発見があるかもしれない。

【KP情報】海へ向かってもらおう。

### ▼思わぬ漂流物

堤防を挟んだ向こう側には、視界いっぱい海が広がっている。風が強く、いつもより波が高い。

暫く歩いて、すぐに異変に気づく。

遠目でみても、誰かが浜辺に倒れている。

S A N C O / 1

【KP情報】PCが近づくなどの行動をとった場合、次の描写へ進む。

## 砂浜／人魚

近づく前から、違和感には気づいていた。

その違和感も、あと数メートルで触れられるほどの距離にもなれば、確信へと変わる。

濡れた（KPCの髪色）色の髪は頬へと張り付き、砂をまとう。伏せられた長いまつ毛も、同じ色をしている。

それよりも、何よりも、目につくのはその下半身だった。

今も絶え間なくからだへ打ち寄せる白波と、太陽の光に反射して、うつくしく輝く（KPCの鱗の色）色の鱗。

倒れていた人——いや、人と言うより、最も相応しい呼び名をきみは知っている。

人魚だ。人魚が打ち上げられている。

S A N c 0 / 1 d 4

【KP情報】上半身になんらかの衣服を身につけている場合は、それらの描写を入れても良い。

各話において、描写やセリフは基本的に一例として、自由に書き換えて良い。

## ■探索箇所

### □砂浜

普段は美しい砂浜も、嵐の後ともなれば荒れ果てる。

人魚以外でも、流木や何と判別つかないものが至る所に転がっている。

### 〔目星〕

・成功 周辺にキラキラとひかるものを見つける。拾うのならば、それが鱗のようなものだということに気づく。

・失敗 特に気になるものは見つからない。

### 〔目星〕に成功した場合〔アイデア〕

・成功 色が一致していることから、おそらくこれは、倒れている人魚のものではないかと思う。

昨夜の嵐に巻き込まれたのだとすると、怪我をしている可能性が高いと感じる。

### □人魚

まるで寝そべるような状態で倒れている。  
近づいても起き上がる様子はない。

〔アイデア+20%〕

・成功 髪、肌、鱗の色。そして、幼さの残る顔立ち。  
どこか見覚えがある。

記憶と心の片隅に居座り続ける。あの日の人魚を思い出した。

・失敗 曖昧な記憶だが、ひどく見覚えがある容姿だ。  
ぼんやりと、あの日の人魚を思い出す。

・ゆする、声をかける等した場合

気を失っているようだ。肩がわずかに上下する様子から、  
息はしている事がわかる。

〔目星／医学／応急手当 等〕

あちらこちらに擦り傷があり、鱗が剥がれている部分も  
あるようだが、大きな外傷はないように見える。

【KP情報】KPCはPCの自宅へ行くまで目を覚さない。

幸い、早朝ということで、きみ以外の人影はない。  
人魚を介抱するにしても、一度自宅へ戻った方がいいだろう。

## ▼自宅へ

連れ帰ってきたはいいものの、どう介抱しようか迷うかもしれない。

人魚は未だ、目を覚ます様子はない。

〔アイデア／知識〕

・成功 呼吸はできているようだが、魚である下半身を  
外気に晒しておいて良いものだろうか。一時的に浴槽など  
に浸けるのもありかもしれない。もつとも、普通の水でい  
いのか、海水がいいのか等はわからないのだが……。

・失敗 呼吸はできているようだが、魚である下半身を  
外気に晒しておいて良いものだろうか。

【KP情報】水につけなくてもKPCは目を覚ます。フレーザーにはなるが、応急手当等を振ることも可能。ある程

度 P C が介抱に関わる R P をしたら次の描写へ。

### ▼人魚の目覚め

水に浸して暫くすると、小さく唸るような声が聞こえる。  
目の前の人魚からだ。

ややあって、気怠げに持ち上げられた瞼からは（K P C  
の瞳の色）色が覗き、辺りへ視線を移した後、きみを見た。

【K P 情報】K P C の口調は自由に書き換える。質問例に  
ついては、聞かれなくても K P C から話す等して良い。

ちなみに K P C は、P C をあの時の少年だとなんとなく  
確信を持っている。

「あなたは……。あの、あなた、名前は？」

### ★返答例

#### ●人魚？

↓「こういう見た目のものを人魚っていうらしいですね。

なら、人魚かも」

#### ●人魚かも？

↓「わたしは自分が何者かの詳細は知らないの……」

#### ●名前は？

↓「K P C です」

#### ●どうして浜辺に倒れてたの？

↓「なんとなく気になって、このあたりを泳ぎ回ってた  
んですけど……。荒波くらい余裕だと慢心して……。のまれ  
てしまい……」

#### ●怪我は大丈夫？

↓「大丈夫です。多分、擦り傷ばかりですから……」

#### ●もしかしてあった事ある？

↓「……もしかして、いえ、でも」

【K P 情報】P C が K P C にあったことがあるか等の質問  
を行った。もしくは、ある程度質疑応答が終わった段階で  
次の描写へ。

### ▼記憶の中のひと

【K P C】はきみをじっとみつめた。

まるで何かを見透かされてしまいそうな。そんな居心地の悪さを感じたころ、[KPC]は口を開いた。

「……もう、十数年前のことです。一昨日のわたしと同じように、この辺りの海を泳いでいて……」

「一隻の船を見ていました。遠くからですけど」

「楽しそうだなあと思って」

「そうしたら、小さな男の子／女の子が海に落ちてしまっただんです」

「あなたと、よく似ていた気がします」

●それは自分だ。等、明言した場合

↓「やつぱり……！ わたし、なんだかこう、予感がしたんです」

「海が、たゆたう生きものたちが、わたしの中につながりのある者たちが、呼んでいる気がする」

「何かいいことがある気がする」

「……あなただったんですね」

【KP情報】イドラの血と、僅かに深きものの血を持つKPCは、化身という扱いではないにしろ、海に住まうものたちと無意識に繋がっている。

KPCの感じた予感は、血によって繋がりのある生きものたちが、KPCをPCと再会させようとする善意のテレパシーのようなもの。

嵐には巻き込まれたが……。

[KPC]は感激したように身を乗り出して語る。

きみとの再会を願っていたことが、これでもかというほど伝わってくる。……と同時に、言い知れない感情も湧いてくることだろう。

スピリチュアルと言えばそれまでだが、若干人間とは違う目線で物事を語る部分があるのだと。

きみへ向ける視線に負の感情はない。ないのに何故か、本能的に畏怖が芽生える。

S A N C 1 / 1 d 4

きみの様子を気にすることなく、[KPC]は上機嫌に尾鰭を動かして、ぱしりと水面を弾く。

「人魚の姿でいる方が楽なんですけど、わたし、人の姿にもなれるんですよ」

「そういう、いきものです。多分」

そういうと、【KP】はおもむろに浴槽から這い出てくる。再び外気にさらされた尾鰭は、まるで水に溶けるかのよう

に形を変え始めた。揺めき、光を反射し、尾鰭は跡形もなく消える。

数度まばたきする頃には、人間となんら変わらない脚がそこにはあった。

様々な概念を無視した変身に、当然ながらきみは動揺することだろう。

S A N C 0 / 1

上半身にかろうじて布をまとっているとはいえ、目のやり場に困るかもしれない。

その場合は、何か衣類を貸してあげよう。

【KP情報】当然ながらズボン等を履いているわけがない為、どう足掻いても全裸or半裸である。

ちなみに、尾鰭以外にも人魚らしい特徴があった場合、それらも綺麗になくなっている。

正真正銘の人間の姿。

「ちゃんと歩けますよ。ほら」

「人魚姫ですっけ？ あれみたいに、足が痛むこともないです」

そう言っ、しっかりとした足取りで浴室を歩き、きみのもとへと戻ってくる。

#### ★返答例

●服貸そうか？

↓「いいんですか？ ありがとうございます」

●人魚姫を知っているの？

↓「知ってますよ。隣の隣のそのまた隣くらいの街で人に紛れていた時に教えてもらいました」

「最終的に王子様と人魚姫が生まれ変わって結ばれるお話ですよね」

●違うよ

↓「え？ そうなんですか？ でもみんなそうだって言っていました」

「ハッピーエンドのお話ししか知りませんね」

【KP情報】人魚姫のお話に関しては、訂正しても「ふーん」くらいに軽い調子。

好きにRPしたら次へ進む。

### ▼人魚のお願い

「そうだ、お願いがあるんです」

「わたしをここに住ませてもらえませんか？」

「せっかくこうして再会できたし……。あなたからいろいろな話が聞きたいし、一緒にしたいこともたくさんあるんです！」

「それに、わたしには決まった住居もないので……」

「暫くの間だけでもいいんです！ 夏が終わるまでとか

……」

【KP情報】KPCはPCが首を縦に振るまで粘る。断固として拒否したら、渋谷海で寝泊まりして毎朝PCの元へ訪れることにするが、拒否しなくてもええと嬉しい。

了承すると、(KPC)はきみの手を握って、これでもかというほど喜びをあらわにした。

「うれしい！ ありがとうございます！ 途中で海に捨てるとかやめてくださいね」

「……そうしたら、あの、申し訳ないんですけど」

「何か食べられるものとかいただけませんか？ 生の魚とかでもいいんですけど」

「昨日の夜から何も食べていなくて……」

言いおえると、タイミングよく(KPC)のお腹がなった。

(KPC)は形容し難い表情で、誤魔化すように視線をただよわせている。

きみも早朝から(KPC)を拾ったりと、てんやわんやしていたおかげで朝食を食べ損ねている。

何か作ってもいいだろう。

【KP情報】ここからは親睦を深めるための自由時間。真っ先にキッチンへ向かってもいいし、部屋を見回ってからでも良い。

服を貸したいと申し出があった場合は、自室へむかうと

良い。

PCの自宅の描写は一例として記載するが、探索箇所以外の部分は、PLから事前に聞いて自由に描写しても良い。

## ▼PCの家

白塗りの壁にライトブラウンのフローリング。家具はシンプルな木目調で統一されている。最近ようやく見慣れたきたきみの家だ。リビングの窓からは朝日が溢れ、柔らかに室内を照らしている。

## ■探索箇所

リビング／キッチン／自室

## □リビング

2人がけのソファとローテーブル、テレビがある。  
特に目新しいものはないが、[KPC]は興味津々と言った様子で見渡している。

・詳細探索箇所

テレビ

・テレビ

電源を入れると、ニュースやローカル番組等が流れる。他愛もない内容だが、[KPC]は物珍しそうに画面を眺めている。

「初めて見たわけじゃないんですよ。十数年前はたまにみる機会があつて」

「あまりよく覚えていないんですけど」

## ★返答例

●海に住んでたんだよね？

↓「一応今はそうなんですけど、[PC]と出逢う前より以前は、ちゃんと屋根のあるところに住んでいたんですよ」

●家族はいるの？

↓「血のつながりだけでいうと、お母様は生きているかと……。お父様は多分、なくなってます。わたしが産まれたころくらいに」

●お父さんは病気？

↓「詳しくは知らないんです」



● 帰らなくていいの？

↓「帰り道は忘れてしまいましたし……。帰ることができても、きつと二度と[PC]に会えなくなってしまうから……」

● それはどうして？

↓「……色々と厳しいんです」

【KP情報】KPCは自分人間とは言えない存在であることをよく理解しているが、決定的なことはPCに伝えない。

また、自身がいた教団についても詳細を語らない。

好きなだけRPしたら「幸運／目星」

・成功 窓から差し込む光が陰る。思わず目を向けると、誰かが窓越しにこちらを覗き込もうとしていた。

丁度、逆光になっていて何者が判別することは難しい。

何者かはきみに気づかれたことを理解すると、慌ててどこかへと去っていった。

まさか、[PC]を拾ったところを見られていたのだろうか。

S A N c 0 / 1

・失敗 窓から差し込む光が陰る。一拍置いてそちらへ目を向けるが、特に何もない

★「幸運／目星」に失敗した場合、KPCが教えてくれる。

「……今、窓から誰かが覗いてました。なんでしょうね」

★返答例

● 今誰か覗いてたよね？

↓「はい。逆光で顔はわからなかったんですけど……」

「……なんというか。少しだけ、不思議な気配でした」

● 不思議な気配？

↓「うまく言葉にできなくて」

● KPCを拾ったのを見られていたかも

↓「……………。まあ、どうにかなるでしょう。多分」

【KP情報】覗き見をしていたのは教団の信者。目をつけていたKPCが拾われたのを見て、様子を見ようとしていた。

KPCは自身に深きものの血が流れていることから、本

能的に同胞の気配を察知した。

好きなだけRPをしたら移動する。

#### □キッチン

まだこれといって汚れない綺麗なキッチンだ。

〔20〕のリクエストを聞いてもいいかもしれないが、また生の魚などというかもしれない。さて、何を作ろうか。

#### ★朝食作り

・作りたい料理の材料があるか

〔幸運〕

・手際よく調理ができるか

〔DEX\*5〕／〔料理系技能〕

・綺麗に盛り付けることができるか

〔DEX\*5〕／〔APP\*5〕

〔20〕は終始きみの作業を伺い、そわそわとしていた。

料理が完成したことを理解すると、分かりやすく目を輝かせている。

「この街にも、数ヶ月に一回くらい遊びにきてるんですけど、その時にお菓子をもろうことはあるんです」

「でもちゃんとした料理って、あまり食べる機会がなくて

……」

料理をリビングのローテーブルへと置くと、ソファアヘ座って、待ちきれない様子できみの様子を伺っている。

#### ★返答例

●生の魚って、そのまま食べるの？

↓「そのまま食べますよ。海にナイフなんてないですし

……」

●食べられないものは？

↓「生きものならなんでも食べられますよ」

【KP情報】街にはKPCが何者か理解している住人（信者）がいる。気づいた時に貢がれている。KPCはいい人だなあくらいにしか考えていない。

食の好みはKPCそれぞれだろうが、基本生きものであれば大体食べられると考えて良い。……人間も。

好きなだけRPをしたら移動する。

#### □自室

デスク、クローゼット、ベッド……等、基本的な家具は揃っている。

[KPC]はというと、ベッドに釘付けになっている。

「いつも洞窟とか、水中で流れて行かないように海藻巻きつけて眠ったりするので、いいなあって……」

#### ★服選び

・似合う服を選ぶことができるか

〔アイデア〕／〔APP\*5〕など

・選んだ服のサイズが比較的丁度良いか

〔幸運〕

服を選んで渡すと、[KPC]は非常に喜んで袖を通す。

「ありがとうございます！ 似合ってますか？」

【KP情報】KPCはPCが服選びに失敗しても喜んで着る。喜んで着るというか、似合わないことに気づかないかもしれない。

基本好きに茶番ダイスを振ったりして自由に過ごしてかまわない。探索を全て終えて、話が落ちた場合、次へ進む。

#### ▼これから

空腹を満たし、ソファで休憩をしてしばらくの時間が経った頃。

[KPC]が「そうだ」と言いながら、弾みをつけてソファから立ち上がった。

「街へ行きましょう！」

「……あ、別に、特別な場所へ案内をしろというわけではありませんよ？」

「この街自体は、わたしも歩き回ったことがありますし、知ってる人もいます」

「ただ、あなたと歩いてみたかったんです」

「ね？ いいでしょう？」

【KP情報】了承するまで粘る。あまりにも嫌がったら渋々家にいるが、そんなPCはいないだろう……多分。

きみが了承すれば、[KPC]は意気揚々と玄関まで走って行く。

奇妙な縁だ。

それでも、あの夏に無くしたものを取り戻したかのよう  
な、そんな感覚を覚える。

少なくとも、今まで生きてきた中でもっとも衝撃的で、  
特別な日になったに違いない。

きみにとって今日は「人魚を拾った日」なのだから。

▼人魚を拾った日 END

「太陽と徒浪」へ進む場合、「人魚を拾った日」から約1  
ヶ月後の出来事である為、SAN値を初期の値へと戻して  
も良い。

また、「太陽と徒浪」の間に、親睦を深める為・お互い

のキャラクターの解像度をあげる為などの理由で、他のシ  
ナリオで遊ぶことも可とする。

この場合、今後の展開に齟齬が出ないように注意すると  
ともに、他シナリオ作者さまへ迷惑がかからないよう気を  
つけること。